

福生市史略年表

(市史関係記事の文頭の洋数字は月をあらわす)

西暦	年号	福生市史関係	一般史関係
約 三万年前		野川流域に多くの遺跡 (府中市武蔵台・小平市鈴木)	後期旧石器時代 ウルム氷期の寒冷期
前 七〇〇〇年		長沢遺跡に市内最大の縄文時代集落が営まれる (勝坂式期・加曽利E式期の竪穴式住居跡約四〇軒を発掘)	縄文時代 縄文中期文化の発展
前 二〇〇〇年		六号遺跡(牛浜)に後期縄文人の生活の跡 縄文後・晩期から弥生時代にかけて、本市周辺の人口が著しく減少する	
前 一〇〇〇年			弥生時代
前 二〇〇年			古墳時代
紀元		(明治五年まで太陰暦による年月を使用) この頃多摩川下流域に大型前方後円墳がつくられる 武蔵国造職をめぐる争いと横停・橘花・倉樺・多氷(多末)の四屯倉の設置(『日本書紀』)	大化の改新 平城京遷都
四〇〇	大化 元		
五三四	和銅 三		
六四五	天平勝宝九	この頃、武蔵国分寺が竣工	
七一〇			
七五七			

七七一	宝亀	二	武蔵国が東山道から東海道に転属される	平安京遷都
七九四	延暦	一三		
九二七	延長	五	小川牧「延喜式」に記載される	
九三一	承平	元	武蔵国小野牧が勅旨牧に加えられる	
一〇八七	寛治	元	8 宗末福生村を支配する	
一一五八	保元	三	平山季重福生村を与えられる	
一一八五	文治	元	11 守護・地頭設置される	平氏滅亡する
一一八七		三	9 平山俊重、平山・福生両村を父季重から継承する	源頼朝、鎌倉幕府を開く
一九二	建久	三		
二〇七	建永	二	3 北条氏、武蔵国の荒野開発を命ずる	
一二二一	承久	三	平山季重、秋留橋郷開発成功を祈念し、宝蔵寺を建立	承久の乱
一二四一	仁治	二	承久の乱での功により、小川氏は薩摩甌島の地頭職を得る	
			10 幕府、多摩川流域の開発を決める。『神光仏言夢物語』（近世後期）に、この頃大野長者が福生を開発したと伝える	
一二七四	文永	一一		文永の役
一二八一	弘安	四		弘安の役
一二九七	永仁	五		御家人救済の徳政令発布
一三〇四	嘉元	二	10 市内で現存する最古の板碑が建てられる（永昌院蔵）	鎌倉幕府滅ぶ。建武の新政
一三三三	元弘	三		南北朝の対立
一三三六	建武	三		足利尊氏、室町幕府を開く
一三三八	暦応	元		
一三七〇	応安	三	10 武蔵守護代大石能重、はじめて資料に現れる	南北朝の統一なる
一三九二	明德	三		

西暦	年号	福生市史関係	一般史関係
一三九四	応永年中	心源希徹により福生清岩院が開創されたとの伝えがある	
一四一一	応永 一八	この時期、武州南一揆の活動が盛んとなる	
一四一六	二二三	熊川福生院が開創されたと伝えられる	
一四五四	享徳 三	武州南一揆、はじめ禅秀方に、のち持氏方に与する	上杉禅秀の乱
一四五五	四	1 分倍河原の戦いで大石房重、上杉方として戦い死ぬ	享徳の乱
一四六〇	寛正 元	1 長徳寺の開山旨外宗没する。一説に天正六年（一五八八）ともある	
一四六一	二	小宮憲明、大悲願寺に梵鐘を寄進する。なお、同四年にも小宮神社（あきる野市）に銅鐘を寄進する	
一四八九	延徳 元	長徳寺と熊川神社に、「福徳二年」の私年号板碑が伝わる	
一五二一	大永 元	大石氏高月城から滝山城に移るといふ	
一五四三	天文 一二		
一五四九	一八		
一五五九	永禄 二	この頃北条氏照は大石氏を継ぎ、以降多摩支配を本格化する	
一五六一	四	6 氏照が福生郷へ制札を出す	上杉謙信関東へ侵入
一五六五	八	6 氏照、半沢寛円坊を先達とする高野山参詣の宿を往生院谷峰之坊と定める	
一五六九	一二		
一五七三	天正 元	3 氏照の奉行人が福生郷へ制札を出す	武田氏滝山城を攻撃
一五八二	一〇		
一五八八	一六	3 氏照、福生の正連寺（清岩院）に寺領四貫文を宛行う	武田氏滅亡する

一五九〇	一八	6 北条氏照の八王子城、豊臣秀吉の小田原攻略の一環とした前田利家・上杉景勝軍に攻められ落城する	秀吉全国を統一
一五九一	一九	10 熊川村の野嶋兵庫、父母菩提のため大悲願寺に弘法大師の木像を寄進	徳川家康関東入部
一五九二	元	2 熊川神社再建される	文禄・慶長の役（一八九）
一五九七	二		徳川家康、江戸幕府を開く
一六〇三	八		
一六一五	元	熊川の野嶋兵庫死去	
一六五三	二	玉川上水の開削始まり、翌年四ツ谷大木戸まで完成	
一六六八	八	8 熊川村、福生村の新田検地（代官雨宮勘兵衛）	
一六七六	四	11 熊川村水田が初見（野島茂雄家文書）	
一七一六	元		享保の改革（一四五）
一七二五	一〇	幕府武蔵国多摩・高麗両郡の開発を命ずる	
一七四〇	五	7 玉川上水の新堀工事開始	
一七五六	六	11 福生村、熊川村の鮎運上（漁業税）始まる	
一七六一	一	福生村水田が初見（田村半十郎家文書）	
一七七三	二	8 『神光仏言夢物語』成る	
一七八二	二		天明の大飢饉
一七八四	四	2 熊川村に「打こわし」の張札。羽村で百姓一揆おこる	
一八〇四	元	3 「鎮守祭札の仕来書」に天王祭、獅子舞等の記述あり	
一八〇五	二		関東取締出役をおく
一八二二	五	8 田村勘次郎、酒造業を始める	
一八二五	八	福生村名主、下河原に水田を開発する	

西 暦	年 号	福 生 市 史 関 係	一 般 史 関 係
一八二九	文政 一二	俳人森田友昇、中福生に生まれる	天保の大飢饉（一三七）
一八三三	天保 四		
一八三五	六	5 江川太郎左衛門英龍、多摩地方の代官となる	
一八三六	七	11 戸倉（あきる野市）光厳寺に「ところの碑」建つ（福生・熊川の記述あり）	
一八五八	安政 五	田村友甫『初心俳諧百人集』に入集	日米修好通商条約
一八六三	文久 三	冬、江川代官の手付柏木総蔵、農兵取立てに付き田村十兵衛、鈴木平九郎と相談。石川弥八郎、酒造業を始める	
一八六六	慶応 二	6 名栗村から世直し一揆、福生・熊川にも波及	大政奉還・王政復古
一八六七	三		
一八六八	明治 元	4 福生村と熊川村の幕府領分が葦山県に、熊川村旗本領分は品川県となる	
一八六九	二	7 福生村は箱根ヶ崎寄場組合、熊川村は拝島寄場組合となり、行政分離	
一八七〇	三	4 礼拝大明神を熊川神社と改称する	廃藩置県
一八七一	四	11 福生村、熊川村ともに神奈川県所属となる	
一八七三	六	4 戸籍区が第一二区七番組（のち六番組）となる。6 福生学舎、長徳寺に開かれる。7 森田浪吉が製糸所創業	
一八七四	七	6 熊川学舎福生院に開かれる。大区小区制で第一二大区六小区（のち五小区）となる	
一八七五	八	6 熊川、福生、川崎、羽村、五ノ神の五村が合併し多摩村となる。福生学舎、熊川学舎が福生学校、熊川学校に校名変更	

一八七六	九	9 福生学校東多摩学校と改名	
一八七九	一二	森田友昇松原庵を継ぎ『浅川集』を出版	
一八八一	一四		
一八八四	一七	7 「川崎村外四か村」の連合村となる	自由民権運動盛り上がる
一八八五	一八	3 笹本八十次郎が製糸所創業	
一八八八	二一	4 高崎治平、西多摩郡東部私立微粒子病検査法伝習所を福生村に開設。7 川崎村外四か村連合村解体	市制・町村制公布
一八八九	二二	4 「福生村熊川村組合」が発足	
一八九〇	二三	3 森田治作が製糸所創業。3 森田周蔵が製糸所創業。	教育勅語
一八九三	二六	4 東京府神奈川県境域変更法により福生・熊川ともに東京府に移管。木村熊次郎渡米する	
一八九四	二七	11 青梅鉄道青梅―立川間開通	日清戦争（一八九五）
一八九八	三一	2 福生信用組合創設される。高崎治平組合長となる	日露戦争（一〇五）
一九〇四	三七		
一九〇七	四〇	田口満之助、東多摩尋常高等小学校教員として赴任する	第一次世界大戦（一八）
一九一四	三		
一九一五	四	福生村の一部に電灯がつく	
一九一八	七	森田浩一米国ジョンスホプキンス大学へ留学する	
一九二二	一一	3 福生村・熊川村の人口あわせて五千人を越える	関東大震災
一九二三	一二	3 三多摩を都制から分離する「帝都制案」への反対運動おこる	
一九二五	一四	2 福生村熊川村組合から都制編入請願書が内務大臣宛に出される	
一九二六	元	4 福生村熊川村組合役場庁舎開庁式	
昭和			

西 暦	年 号	福 生 市 史 関 係	一 般 史 関 係
一九二七	昭和	金融恐慌のため福生地内で製糸所の閉鎖が出る	
一九二八	三	6三代続いた森田製糸所終焉する	
一九三五	一〇	4江戸文芸研究家、三田村鳶魚水喰土調査のため熊川村役場を訪問	
一九三六	一一	陸軍航空立川支廠（熊川倉庫）できる	日中戦争始まる
一九三七	一二	3熊川村に乃木少年団・愛国少女団が誕生	
一九三八	一三	福生村・熊川村の合併への動きおこる	
一九三九	一四	12立川都市計画区域に福生村・熊川村が入る	
一九四〇	一五	4多摩飛行場（福生飛行場）できる。陸軍飛行実験部移転してくる。11福生村・熊川村合併し町制を施行	
一九四一	一六	1小学校、国民学校と改称	太平洋戦争（一四五）
一九四二	一七	10陸軍航空審査部が新設される	
一九四三	一八	7都制が施行され、「東京都西多摩郡福生町」となる	
一九四五	二〇	4・4熊川、B29の爆撃をうけ、死者三名。8・1八王子、立川大空襲、熊川が爆撃をうけ、八軒全焼。8・13熊川駅近くに爆弾が落ち、一名死亡。8・15太平洋戦争終結。9米軍第一騎兵師団、福生飛行場（横田）に進駐。11福生青年団発会式	
一九四六	二二	12熊川青年団発会式	インドシナ戦争（一五四）
一九四七	二三	9西多摩郡連合青年団を結成。人口、一万人を越える 2文芸雑誌「あかざ」創刊。4初の公選で岸徳次郎町長誕生 5福生中設立。6西多摩自由懇話会設立。7一小で西多摩夏期大学開講。11一小で学校給食開始	

一九四八	二三	11 福生中学校校舍落成式	朝鮮戦争始まる
一九五〇	二五	10 国勢調査戸数二九二〇戸、人口一万四六六九人	
一九五二	二七	西多摩郡の演劇青年が劇団「ひこばえ」を結成、創立公演「原色の街」を福生で行う	
一九五三	二八	11 町風紀取締条例施行	
一九五七	三二		町村合併促進法
一九六二	三七	6 市街地開発地域に指定される	小河内ダム完成
一九六三	三八	10 加美平土地区画整理事業始まる	
一九六四	三九		東京オリンピック
一九六五	四〇	8 地方財政再建特別措置法（地財法）準用される	
一九六七	四二	9 地財法準用解除	
一九六八	四三	7 市制実現全国期成会、役場で開催	
一九七〇	四五	7 市制施行（人口三万八七四九人）。第一次長沢遺跡発掘開始	ベトナム和平協定調印
一九七三	四八		
一九八〇	五五	7 市民憲章制定	
一九八三	五八	9 市の人口五万人を突破	
一九九〇	二	7 市制二十周年	
一九九一	三	9 市の人口六万人達成。福生十景決定	
一九九三	五	7 茶室「福庵」オープン	多摩ライフ21開催
一九九五	七	9 福祉センターオープン	
一九九八	一〇	4 長野パラリンピック出場の土田和歌子選手市民栄誉賞受賞	